

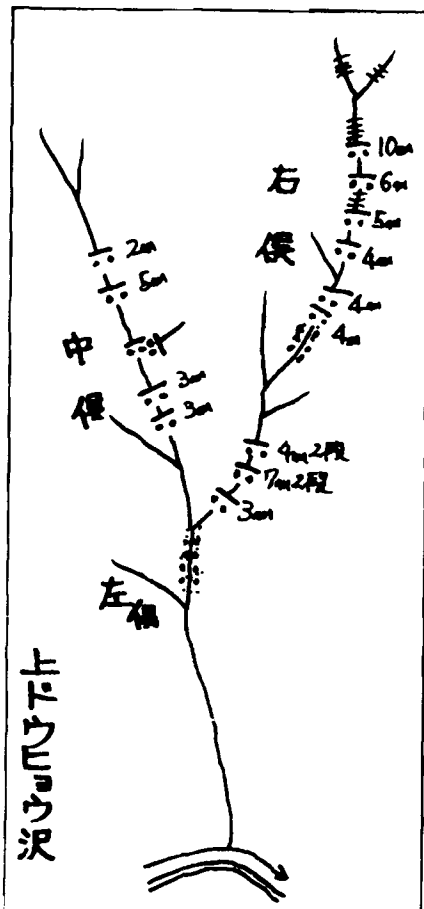
クワ沢右俣 1992年7月25日
L!

標高1389mのピーク西側の鞍部からクワ沢右俣めざして下降する。水のない窪地を下って行くと、水流のある沢に出て2.5mの滝を下る。このあと8mの滝を下ると右岸から小沢が合流する。このあとナメ状の滝を下り左岸からの支流をあわせると、大石がある。この後まもなく二俣（中俣出合）。水量は、降りてきた右俣の方が多い。

中俣出合からは平凡。林道にかかる橋まで下って下降終了とする。

(記・

【タイム】 下降開始(11:55)→下降終了(13:20)



上ドウヒョウ沢中俣

1992年7月25日

L!

8時45分沢に入る。しばらく何もなく、左俣出合からは時々伏流となった。右俣出合を過ぎると、やがて3mの滝が2つ現われる。2m滝の上で支沢が合流し、今度は5mと2mの滝。すべて直登して越える。

やがて水がなくなる。最後の二俣を右に入ると、約20分で稜線に出る。(記・

【タイム】 遡行開始(8:45)→右俣出合(9:50)
→遡行終了(10:45)

上ドウヒョウ沢右俣

1992年6月13日

L!

下ドウヒョウ沢の遡行を終え尾根上で小休

止。9時50分、ヤブをこぎながら下降を開始する。30分程で急なナメ状の沢に降り立つ。ブッシュにつかまり、スリッパに注意しながら下降していくと、10m程の滝が現われる。そしてその先には5mほどの滝が続いている。しかし特に下降困難な所もなく、滝の側壁などを捲くようにしながら下降を続ける。30分ほどで水量比1：1の二俣（右俣左沢出合）となった。

二俣の先にも滝がかかる。2段4m、2段7m、3mと続く滝である。これを越えると沢は傾斜を緩め、伏流状を呈してくる。11時55分、本流に出合い、下降終了とした。
(記・

[タイム] 下降開始(9:50)→左沢出合(10:50)→下降終了(11:55)

下ドウヒョウ沢右俣 1992年6月13日

今日は、夏合宿の予備調査をかねて、男鹿山塊の大川流域に入りました。

下ドウヒョウ沢出合近くの林道の路肩に車を止め、7時10分、遡行開始です。約10分歩くと最初の滝が出てきました。2mです。そしてすぐにナメが続き、3m C.S.滝、4m滑滝(階段状)、2m、4m 2段滝と続き、なかなか期待できそうです。

遡行を開始してから約40分、最初の小休止としました。地図の等高線の込み具合から予想した通り、岩盤状で急傾斜の沢ですが、同じような勾配で沢が続いていて、大きな滝はなさそうです。

遡行を再開。まず4mの滝。これを越えていくと、左右より支沢が小滝をかけて合流してきます。沢は傾斜がさらに急になり、沢幅も狭くなってミニゴルジュの感じです。3mのC.S.滝を越えると、ようやく沢の中心部を通過したようです。

このあと沢は、土砂のため伏流となりながらも高度を上げていきます。5mの最後の滝を過ぎ、階段状の岩盤を登りつめると、やがて沢はヤブの中に消えていきました。ヤブをこいで、9時30分、尾根に出ました。
(記・

